

エミリー & Kさん一家

留学生に接して

1年 K・R

今回ケント生のホストファミリーとして一週間 Emily と共に過ごしました。初日、関空でのお出迎え。最初は自分の英語が留学生に伝わるのかが心配でしたが、いざ対面すると Emily の方から積極的に話してくれて不安が一気に吹き飛びました。その日はずっと日本やアメリカの生活について話しました。

翌日からの登校の5日間は Emily にとって興味深いものになったと思います。書道や茶道の日本文化に触れたり、北野生の授業を見学したりと充実した時間が過ごせました。また放課後には北野の友達や他のホストファミリーの人達と夏祭りに行ったり、ポケモンセンターで留学生とポケモンの話をしたりと、日本の夏の風物詩やアニメ・ゲーム文化も体感することが出来ました。

5日目のフェアウェルパーティーではオーケストラ部による「もののけ姫」の演奏に感動し、ESS 部とパーティーに参加していた人達と一緒にアメリカの遊びを楽しんでいました。土日には京都と奈良の古風な日本を見て写真をいっぱい撮っていました。そして次のホストに引き継ぐ時、お互いに感極まてしまいましたが、次のホストに迷惑がかからないようこらえ、お別れをしました。

今回のこの機会でも私自身も成長することができましたし、Emily にとっても日本文化、言葉の特殊さを学べたと思います。次回のホストファミリーもぜひ希望したいです。今回この企画に携わってくださった皆さん、本当にありがとうございました。

ホストファミリーになって

Kさん(保護者)

最初娘に、「ママ、ホストファミリーになって」と言われたので、なり手が無いのだと思いきや、4人の募集に8人で、抽選と聞いて籤運の悪い娘、絶対外れると思っていたのが当たり。これは大変。あわてて家の片づけをはじめました。

我が家は夫婦で寿司屋を経営しているので、留学生の面倒が見られないと、主人が反対したのですが、私は、娘と二人で過ごすほうが為になると思ってお引き受けしました。学校の友達、寿司屋のお客様、私の友人と、皆が力を貸してくれたので、何とか8日間を過ごせました。エミリーも、お寿司が気に入ったようで大変喜んでくれました。

また来年もホストファミリーになってと娘が言いますので、また申し込みしたいと思います。そして、娘が留学したいと思ってくれたらとおもいます。

最後に、このような機会をあたえて頂いた、北野高校に感謝いたします。

エベレット & I君一家

1年4組 I・Y

放課後、僕は廊下の隅でメールを送信しました。ホームステイの受け入れの抽選を当てたことを母に報告するためです。ホストファミリー募集のプリントをもらった時は、「いいなあ」くらいにしか思っていないでした。しかし、母の後押しもあり応募することに決めました。

期待半分と、どうせ当たらないだろうという気持ち半分とで応募用紙を先生に手渡したのですが、いざ受け入れが決まると急にワクワクしてきました。クラスのラインでみんなに伝えると、「会いに行く！」「楽しみ」等の返信が返ってきて、一安心。正直、僕ひとりでは不安でした。

早速教えてもらったメールアドレスに英語で質問を送ってみました。少し手間取りましたが、英語で帰ってきた返信によれば食べ物の好き嫌いは無し、生の魚も OK ということでした。日本で行きたい場所は？という質問には、「任せます」と。とりあえず日本という事で京都には連れて行ってあげようと思いました。

その後も着々と準備を進め、いざ到着の日。

飛行機の到着時刻は夜。電車でウトウトしながら関空へ向かいました。エベレットが出てくるのを待つ間は緊張しっぱなしでした。日本語はどのくらい喋れるの？(このときは知らなかった)、日本語で話しかける？英語で？と考えながら待っていると、先生が「来た」と教えてくれました。先生が目線の先にはスーツケースを持ったケント生たちが。事前に渡されていた顔写真を思い出しながら、顔を探します。

第一印象、背が高かった。近寄ってみると、やっぱり背が高かった。(笑)身長に圧倒されながらも英語で話しかけてみました。なんとか通じたみたいだったけど、何と言ってるか聞き取れない…。雰囲気ですれ違ったあと、皆で写真撮影をしてからすぐに解散。こうしてエベレットとの一週間が始まりました。

が、その日のうちに衝撃の事実。

エベレットは全く日本語が喋れない！

登校初日、少し冷静になって話してみると、意外と聞き取れることに驚きました。電車の中でもたくさん説明が出来ました。待機場所の相談室へ連れて行くと一仕事が終わった感じでどっと疲れが出てきました。

その日の昼休みに全校集会が開かれケント生の自己紹介がありました。他の子が日本語を流暢に話しているのを聞いてマジか、と……。

その後は初めての授業、これもまた色々手間取りチャイムギリギリに準備ができました。他のケント生はプレゼンテーションを用意していたようで、日本語で頑張って話していました。

放課後、エベレットと時間の空いていたエミリーを連れて十三の商店街をブラブラしました。二人が一番驚いていたのが、ご飯屋さんの食品サンプル……かな？と思いきや、食品サンプルは知っていたようで、その中の鯛の尾頭付きのお刺身が珍しかったよう。食品サンプルって有名なんだな……と実感しました。

登校二日目は7月7日！ということで放課後に七夕祭り。クラスの友達とエベレットとで行く予定でしたが、急きょエミリーも誘って大阪天満宮へ。途中でケイトリンも加わってかなりの大人数になりました。天満宮は人で溢れかえっていたので、とりあえずみんなでかき氷を買いました。エベレットたちは初めて食べたのか、全員「おいしい」と感動していました。また、金魚すくいでは女子二人がたくさんすくっていたのに対し、エベレットは0匹。難しい・・・と言っていましたでしたが楽しそうでした。

残りの日々も、エミリーとクリスティーナと一緒にポケモンセンターに行ったり、祖母の家で手巻きずしを食べたり、京都観光、大阪観光へ行ったりと、日本を満喫してもらえたかな、と思います。またクラスメイトや部活動のメンバーとご飯に行ったり、フェアウェルパーティーでゲームをやったり・・・と本当に盛り沢山な一週間でした。

エベレットだけでなく、他のケント生とも一緒にでかけることが出来て、4人のケント生全員と仲良くなることが出来ました。英語でのコミュニケーションは、日常会話ならまだしも、少し詳しいことを説明しようとするると語彙量が少なく、説明できないことが多かったです。それでも日本語が全く喋れないエベレットと英語で意思疎通をすることができ、僕にとっても貴重な経験になりました

普段は授業でしか触れることのない英語を、ほぼ一日中使い、英語を身近に感じる事が出来ました。この一週間で学んだことを、様々なことに生かしていきたいです。そして何より、このような経験ができる機会を作ってくださった先生方と、楽しい思い出をくれたエベレットや他のケント生、友達に感謝します。ありがとうございました。

エベレットを迎えて

Iさん（保護者）

6月末、仕事帰りの更衣室で息子からの「(ホームステイ)まさか当たった」のメールを見て「えっ！！」と声をあげて、同僚に「何！！」と驚かれました。当たることは無いと思い込んでいたので まさにまさか！！でした。

我が家に来てくれるのはエベレット君。写真はどちらかと言うと童顔のかわいい男の子ですが、何回かメールを送っても返信が来ず、不安。ホームステイ受け入れの説明会の日の先生のお話では、どうもケント校生徒ではなく引率の先生の息子さんとか。よくわからないままとりあえず連絡のつくアドレスを教えてもらい、楽しみにしているとの返信をもらってほっとしました。

過去の体験談を読んで、まあ普段通りでいいって事やね、とお気楽に構えていたのですが。

いよいよ当日、空港にお迎えに行き、めっちゃ大きい男の子でびっくり。超チビの息子のベッドでは無理だよ、と家にいる主人に連絡。主人がベッドの足元に継ぎ足しの台をセットしてくれなんとか形になりました。

さっそく本人に「こんにちは」と挨拶をすると相手はキョトンとした表情。えっ！！もしかして日本語全くわからないの??ケント校生ではないという事は、日本語コースの子ではないのだろうかという

一抹の不安もあったのですが、来るからには片言くらい話せるだろうと楽観的に考えていたら不安の中でした。隣で他の留学生が「こんにちは、私は〇〇です。～」と上手な日本語の挨拶をしているのを耳にしなが、これは大変だとじわじわと実感が。

今年は関空への到着が遅く家に着いたのは22時前でした。翌日は家を6:20に出る予定。本人も疲れているので家の説明を簡単にして早々に就寝。

やはり日本語は全く喋れず理解もできない様子。でも、シャワーは明日の朝使いたい、朝起こして欲しい、ときちんと言ってくれるので安心しました。

翌日は朝6:20にバスで出発。事前のメールで吹奏楽部を見学したいと聞いていたので、放課後は吹奏楽部の練習に参加した様子でした。楽しかったと帰ってきました。他の日も茶道部、ESS部、大阪で七夕祭り、ポケモンセンター、たこやき屋さん、ファミレス等、日本の雰囲気を楽しんでくれた様です。食事に関してはどの体験談も日常的な食事をしている様子だったのですが、エベレットは朝食もパンを一口、ご飯にしても一口、サラダも一口とほとんど食べず。夕食も何品かの内ほんの少し口をつけて、後はご飯をお茶碗半分位という状態だったので途方にくれました。シアトルでは車で通学なのが、我が家から自転車、阪急、徒歩と、さぞかし疲れているだろうに体は大丈夫かと気を揉みました。朝食も少ししか食べず出かけているのに、息子が言うにはお昼の学食のラーメンを半分しか食べていなかったり、夜はお祭りの屋台の焼きそばも半分だけだったり、体は大きいけれど小食なんだ、という事で理解しました。

お寿司は好きだった様で、祖母宅に行き手巻き寿司をしたところ、手巻きスタイルを初めてだと気にいってくれ、海苔がおいしい、シアトルの海苔はもっと薄いとお話していました。祖母も喜んでくれて嬉しかったらしく余分にあった手巻き寿司用の海苔(スーパーにあるごく普通の物です)1パックをプレゼントしていました。エベレットは目をキラキラさせて喜んでいました。

初日は大丈夫かな?と心配したエベレットですが、1日目より2日目の朝、朝より帰宅後と少しずつ活気ついてゆくの分かり、やはり時差ボケと緊張で疲れていたのだなと思いました。全く日本語を理解しない子が来て慌てた私達ですが、本人が、朝シャワーをする、とか、もう寝る、とか、(学校に持っていくのに)お茶は要らない、水を持っていく、とかきちん自分の意思を伝えてくれるので助かりました。私だったら、断ったら悪いかな、さっさと上に行ったら悪いかなとか、なかなか言い出せないんじゃないかと思えます。気質の違いというのを感じました。こちらでも起きたら部屋の窓を開けてきて、シャワーのあとは換気扇のボタンを押しておいて等1日1つずつお願い事を増やしていきました。エベレットも徐々に体調が整い緊張も取れ生活のリズムもお互いじっくりいきたら、もう1週間が終わりになってしまった感じです。

息子も(この機会がなければ絶対行く事なかった)ポケモンセンターに行ったり(笑)クラスのお友達と一緒に出掛けたり、たわいない会話に文化・習慣の違いを発見したり本当に貴重な体験だらけの1週間であったと思います。

また、私達家族も、もう少し英語に堪能であればエベレットとももっとコミュニケーションが取れたであろうと残念ではありますが、それでも大きな息子が一生懸命自分の家族の写真の説明をしてくれるキラキラした目や嬉しそうにニヤッと笑う顔など忘れられない思い出が一杯です。

この貴重な機会を与えてくださった学校と交流会、支えていただいたクラスのお友達、部活のお友達、そして大きな息子エベレットに感謝しています。

ケイトリン & Mさん一家

わたしの Challenge

2年7組 M・Y

私が今回ホストファミリーに応募した一番の理由は自分の英語の会話力を試してみたかったからです。私は小学校2年生から6年生までの4年間、父の仕事の都合でアメリカのサンフランシスコで過ごしました。アメリカでは現地の学校に通っていたため、日常会話程度の英語はすぐに頭のなかに植え付けられていきました。アメリカから日本に帰ってきて5年がたった今、その植え付けられた英語を使ってどの程度の会話ができるのか試してみたかったのです。とは言うものの、その植え付けられた英語というのもせいぜいアメリカの小学生が使う程度の英語で、そんな英語がアメリカの高校生に通用するのかがアメリカから帰って来てからずっと不安でした。

そんな不安をかかえながら、昨年の年末、私は父と妹と旅行でサンフランシスコに一週間ほど行ってきました。そのうちの数日間はアメリカにいたころの友人たちと遊んだのですが、友人同士が話している内容は理解できるものの、相手に伝えたいことをうまく英語にできず、とても悔しい思いをしました。その時あらためて自分の英語の会話力が低下したことに気付かされました。

そして、その低下した英語の会話力を向上させるために私はホストファミリーに応募しました。Kaitlynn が来ると決まった時、嬉しさとともにずっとかかえていた不安が押し寄せて来ました。待ちに待った Kaitlynn を空港に迎えに行く日も、ずっとドキドキしっぱなしでした。しかし、その不安は Kaitlynn と話すうちにすっかりなくなりました。その理由は Kaitlynn がいい子だったことは勿論のことなのですが、何よりも Kaitlynn が日本語をあまり上手に話せないということが私を安心させました。私にとって英語で会話することが難しいように、Kaitlynn にとっても日本語で話すことはとても難しいのです。お互い同じ不安をかかえていたのですぐに打ち解けることができました。

Kaitlynn はとても勉強熱心で、私が多少難しい英語でも理解できるということを知っているのに、なるべく日本語で話そうとしていました。その姿を見て、私も一度低下した英語の会話力を取り戻さねばと思えるようになりました。

Kaitlynn が片言の日本語を話しているうちに私が気付いたことは、Kaitlynn はとても礼儀正しいということでした。電車の中で知らない人にぶつかったときは「すいません」、朝学校に行く途中に北野の制服を着ている人には一人ひとり「おはよう」と言い、学校の廊下ですれ違う人全員に「こんにちは」、学校から帰るときは「さよなら」、などと、基本的な挨拶は日本人以上に上手に使っていました。上に書いたような基本的な挨拶はアメリカの学校で習ったらしくすでに知っていたのですが、食事をはじめの際の「いただきます」、食事のおわりに「ごちそうさま」、家をでるときに「行ってきます」、家に帰ってきたときの「ただいま」は初耳らしく、何回も練習していました。発音が難しく、何度も間違えていましたが、それでも諦めず丁寧に挨拶していました。このように真剣に日本語と日本の文化に向き合う姿を見て、私も間違いを恐れず Kaitlynn のように真剣に英語と向きあおうと思えました。

Kaitlynn との時間はあっという間に過ぎ、私は部活が忙しかったというのもあり、登下校と授業の間、昼休み、朝ごはんと夕ごはんの間しか Kaitlynn と話す時間はありませんでした。しかし、その短い時間

の中でも、話題が無くなってしまふほどたくさんのお話をしました。その一週間で私の英語の会話力はだいぶ回復したように思え、相手に自分の伝えたいことが伝えられないという不安もいつの間にかなくなっていました。そして、私は少しでも自分の英語の会話力に再び自信をもてるようになり、海外で働くという将来の夢にまた一歩前進できたことがとても嬉しいです。

このような貴重な体験は誰にでもできるものではないので、このような機会を与えてくださった先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。また、本当の家族のように Kaitlynn をあたたかく迎え入れてくれた家族に感謝しています。ありがとうございました。

Kaitlynn との一週間

M さん(保護者)

抽選会の日、ドキドキしながら連絡を待っていたところに Y から「抽選、あたったー」と嬉しい知らせが入りました。どんな子が来るのかしら？と楽しみな半面、十分にホストファミリーを務められるのかしらと不安でいっぱいになりました。というのも5年前まで4年間アメリカのサンフランシスコに家族で住み、現地の学校に通った娘たちはこの上ない良い経験を積み、友だちを作って帰ってきたものの、帰国してからは英語を話す機会は学校の授業以外ではほとんどなかったからです。また、英語の堪能な主人が単身赴任で週末まで帰らないこと、大学生の姉も東京にいるということもあり、私の不安は高まるばかりでした。

しかし、関西空港で迎えた Kaitlynn の不安そうな表情ながらも一生懸命に打ち解けようと自らを奮い立たせている様子を見て、不安なのは一緒、気楽に出来る範囲のことをしようと思うことにしました。空港から箕面の自宅まで1時間の車中、後部座席に Y と並んで座った Kaitlynn はできうる限りの日本語を使ってアメリカの学校のことや興味のあること、車窓から見えるものに関して質問したり、、、と長旅で疲れていると思われるのに、たくさん話してくれました。それに対して Y も英語と日本語を交えて説明したり、私の通訳をしてくれたり頼もしく感じられました。

午後9時過ぎに家に到着、その日は疲れている様子だったのと次の朝から北野通いが始まるので、Kaitlynn のために用意した部屋ですぐに休んでもらうことにしました。

月曜日から金曜日の間、朝は5時半に起床し、6時にご飯を食べて6時40分に家を出発、始発駅である箕面駅から十三までは座って通うことは出来たものの、ラッシュの電車は初めてのことで驚いたようでした。また、帰りは女子ハンドボール部に所属する Y の練習が終わるのを待って7時半に帰宅するという忙しい毎日、家でゆっくりする時間なんて殆どなかったように思います。それでも Kaitlynn は夕食後に「何かアメリカやワシントン州のことについて知りたいことはありませんか？」と問いかけてきたり、「新選組って何ですか？」と日本の歴史についても学んできたようで質問することがありました。その度に、普段からアメリカについてもっと興味を持っているべきだった、自国の歴史についてもっと学んでおくべきだったと思いました。

忙しい毎日でしたが、家と学校との往復だけではなく学校が終わった後に天満の七夕まつりに行ったり、梅田のポケモンセンターに行ったり、Kaitlynn が大好きだというお寿司を食べに回転寿司に行ったり、金曜日にはクラスメイトとクラブの友だちが家に来てくれて、たこ焼きパーティーとお泊り会をしました。家で接する気を使い控えめな Kaitlynn とはまた違い、同年代の女の子たちとはしゃぎおどける Kaitlynn の姿は新鮮

でした。

土曜日の午後はハンドボール部の練習試合があり、Yはどうしても休めないということで、主人と私と中3の妹とで奈良公園と東大寺に行くことにしました。日本の古い建築物が好きだという Kaitlynn にとって奈良は全てが COOL だったようです。「美しいです!」「かっこいい!」「素敵!」と目をキラキラさせ、大仏や展示物、建物の一つ一つを丁寧に見て回り、その都度主人に質問をぶつけていました。正直なところ、こんなにも喜んでもらえるとは思ってもいなかったのですが、せめてもう一日休日があればもっと他にも連れて行くことができたのに、、、と残念でなりませんでした。

最終日、Yは試合があるため次のホストが迎えに来る午前9時より前に Kaitlynn との別れの挨拶をしました。Kaitlynn が「私のホストが Y で本当によかった。ありがとう。」と、涙ぐんでハグをする二人の姿を見て、ホストファミリーをして本当によかったと思いました。

将来、何らかの形で留学したい、海外で働いてみたいと思っている娘にとって、この一週間は良い刺激と経験になったことと思います。

最後になりましたが、このような貴重な経験をさせてくださった北野高校の英語科の諸先生方と国際交流委員会の方々、クラブ活動と勉強で忙しいのに泊まりに来てくれたお友だち、いろいろ助けてくれたクラスメイトの皆さん、本当にありがとうございました。

クリスティーナ & Sさん一家

The Special Week with Kristina

2年9組 S・A

以前からホストファミリーの受け入れには興味をもっていて、今回思い切って応募しました。私の家に来たのはクリスティーナです。

私がこの一週間で身につけたこと、それは「英語」ではありません。むしろ「日本語」です。クリスティーナは積極的に日本語を話そうとしましたし、とても日本語が上手でした。なので私は、日本語をはっきりと簡潔に話すことを心掛けました。また、自分の意見をはっきり口にする事の大切さも、あらためて感じました。

初日は日本の湿気と暑さに慣れずダウンしてしまい、とても心配しましたが、2日目からは元気一杯で安心しました。平日はまず、早起きと満員電車から始まります。学校では私のクラスや ESS などで何人か友達もつくったクリスティーナ。とても楽しんでたようで良かったです。放課後には、友達と梅田に出て、クリスティーナの大好きなセーラームーンのグッズを買ったり、プリクラをとったりと、本当に楽しかったです。

また、クリスティーナはけん玉にも挑戦しました。私が通う、けん玉教室に連れていったのです。クリスティーナはとても上手で、初心者とは思えませんでした。これには本人が一番驚いていましたね(笑) 友達も、1人1つずつ得意技を披露してくれたり、パフォーマンスをしてくれるなど、クリスティーナを歓迎してくれました。空中技に目を丸くして、「すごい!」と感動していました。最終日まで一週間練習をして、クリステ

イーナは5級を取りました。おめでとう！「楽しい！もっと上手になりたい！アメリカの友達に見せたい！」と言ってくれて嬉しかったです。

土曜日は奈良へ行きました。アルバイトでラマの飼育をしているクリスティーナは動物好きで、たくさんの鹿を「可愛い～」と言って撫でていました。やはり東大寺での驚きは大きかったです。大阪弁を少し覚えたクリスティーナは、「めっちゃデカイ！」あまりの大きさに口をあぐり開けていました（笑）春日大社に行く頃には暑さで疲れが見え始めたものの、冷たいかき氷を食べるとクリスティーナも私もすぐに元気になりなした。その日が一番暑かったのではないのでしょうか。疲れ果てた私たちは、帰りの電車で、母に起こされるまで爆睡してしまいました。（笑）

あっという間に過ぎてしまった一週間。初めてのこと、驚いたこと、楽しかったこと。これらは、アメリカから来たクリスティーナだけではなく、私もたくさん経験しました。その全てが新鮮で興奮することばかり。他のケント生とも仲良くなれたし、「これからもずっと友達でいたい！」と、心からそう思います。クリスティーナ、ホンマにありがとう！！
本当に楽しかったです！！！！

Sさん(保護者)

クリスティーナのホストファミリーに決まってから、娘とクリスティーナはラインでお互いの情報交換をしていました。その中で、私が一番知りたかったことは、衣食住に関することでした。食べ物の好みは勿論、部屋は和室でもよいか、布団かベッドか、風呂、洗濯など。事前に彼女の好みを知って、準備できることはしてあげたいと思っていました。幸い、クリスティーナは日本語を勉強して4年のキャリア。日本語も堪能で、日本文化にかなり精通していました。その上、今回の目的の一つが日本の生活を体験することだったので、特別なことは要らないとのことでした。手狭な我が家唯一の和室を彼女の部屋として使ってもらうように片付けをし、机といす、スタンド、扇風機、寝具などを置きました。クリスティーナは、にわか仕立ての部屋で過ごし、私の作った食事やお弁当を「ありがとう、ほんとにありがとう。」と感謝の言葉とともに受け入れてくれました。

私が気にかけてしたことと言えば、苦手だと聞いていた「なまもの」を出さなかったことくらいでしょうか。滞在中、日本の普通の生活を体験し、楽しもうという姿勢がうかがえました。そのようなクリスティーナでも、耐えられなかったのが「日本の蒸し暑さ」でした。滞在中、台風の影響で毎日うだるような暑さが続いていましたので、かなり辛かったと思います。特に、到着して二日目には、寝不足と時差ボケに加え、日本特有の蒸し暑さと初めての家庭や学校でのストレスで、学校から帰宅後ダウンしてしまいました。水も食事も摂らず、10時間近く眠り続けました。この時ばかりは、どうしてよいかわからず、先生にご連絡させていただきました。その日夜遅く目覚めた彼女は、すっきりした顔つきになっていて「10時間も寝ていたの？」と驚いていました。翌日は、登校できましたので、安堵しました。

その後の二週間、過酷な気候と戦いながらも、様々な異文化体験をしたに違いありません。

何事にも目をきらきら輝かせるクリスティーナと暑い夏を過ごせたことをうれしく思います。